

メセナアワード2012



7つの受賞活動が決定

優れたメセナ活動を行った

企業や団体を表彰する「メセナアワード」。

本年は108件(99社・団体)の

応募案件のなかから、

メセナ大賞部門6件、

文化庁長官賞部門1件、

計7つの受賞活動が決定しました。

メセナ大賞部門

◆メセナ大賞

アサヒビール(株)

アートNPOの活動基盤強化への多様な支援と協働

◆歴史をひもとく賞

キヤノン(株)

「綴プロジェクト」の実施

◆文化の映写機賞

(株)千葉銀行

ちばぎんフィルムライブラリー

◆支援のこころ賞

トヨタ自動車(株)

コロロハコプロジェクト〜芸術・文化を通じた復興支援活動〜

◆四季のそよかぜ賞

(株)帆風

帆風美術館の運営

◆未来のうけざら賞

三菱地所(株)―(株)イムズ―(株)西日本新聞社

三菱地所アルティアムの運営、展覧会の企画

文化庁長官賞部門

◆文化庁長官賞

東日本電信電話(株)

NTTインターコミュニケーション・センター「ICC」活動

2012年度のメセナアワード

本年の特徴として、長年にわたる継続的な取り組みが注目を浴び、企業活動や文化活動を通じ、地道に培ってきたノウハウやパートナーシップをいかした点が高く評価され、受賞につながりました。

東日本震災復興支援においても、震災以前からの活動やネットワークを活用し、企業の創意工夫により被災地を勇気づけようとする活動が多く見られました。また、本業の強みを芸術文化振興に活用する取り組みが成果を上げています。さらに近年、地域社会に貢献するメセナ活動が活発化する傾向が継続しており、2012年にも地域へ参画していこうとする取り組みや全国的な広がりのある活動が受賞しました。惜しくも今回は受賞とならなかった活動も、ソーシャルビジネスの手法によるまちづくりや、多彩な顕彰事業、茶の湯や和服など伝統的な生活文化に根ざした活動、音楽や文芸によるコミュニケーションの活性化など、多様な展開が見られ、今後も日本の芸術文化を活気づける活動として注目されます。

●メセナ大賞

アサヒビール(株)——【全国】

アートNPOの活動基盤強化への多様な支援と協働

アサヒビールは「未来」「市民」「地域」を方針として、専門性や機動力が持ち味のアートNPOとのパートナーシップによるメセナ活動に取り組んでいる。アートの力で地域再生を目指す全国各地の活動のネットワーク「アサヒ・アート・フェスティバル(以下AAF)」や多様な課題を共有・議論する「全国アートNPOフォーラム」の支援、アートNPOとの協働によるアサヒ・アートスクエアの運営など、手法は多岐に渡る。



アサヒ・アートスクエアで行われるAAFネットワーク実行委員会

特にAAFでは10年目を迎えた2011年、これまでに培われてきたネットワークが東日本大震災に際して大きな力を発揮した。

3月18日にAAF支援宣言が発表され、人的支

援や活動支援募金、宮城県南三陸町で行われていた「きりこプロジェクト」の全国展開などが実施された。その逸早い行動は、NPOの主体性を重視しながら、基盤強化への継続的な支援と協働を行ってきた成果といえる。

同年夏に始動した「世界ネットワーク・プロジェクト」により、そのつながりはアジアへも拡大。7カ国から訪れたクリエイターと、東北ツアーを機に交流が始まった。蓄積された活動事例をいかした書籍の発行や、データベースのアーカイブ化を進めるなど、アートと社会のかかわりに新たな価値をもたらす提案の数々は、多方面からの期待を集めている。

アートが市民の豊かな創造性を引き出すことにより、自分たちの力で社会課題にアプローチしていく。そうした活動への支援は一企業のメセナの枠組みを超え、よりよい社会を創造しようとする大きな市民活動の流れを生み出している。

評価Point

●各地の課題に取り組むアートNPOの支援を継続的にを行い、全国的な交流を促している。●多彩な広がりを持つ活動の成果をアーカイブし、発信しようとしている。

● 歴史をひもとく賞

キヤノン(株) ―― 「京都ほか」

「綴プロジェクト」の実施

キヤノンは、鑑賞する機会が限られている国内の文化財や海外に渡った屏風・襖絵などの日本の貴重な文化財の高精細複製を行う「綴プロジェクト」(正式名称:文化財未来継承プロジェクト)という社会貢献活動を2007年より実施している。

デジタルカメラでの多分割撮影や高精度な色合わせの開発、日本画の繊細で立体感のある表現を再現するプリンティング技術など最新のデジタル技術を投入し、同社ならではの取り組みを継続的かつダイナミックに展開する。



海北友松筆「建仁寺方丈障壁画」の高精細複製品
原本所蔵: 大本山 建仁寺

複製品は、撮影したデータを画像処理し、特製の和紙に出力した後に、京都に伝わる伝統工芸の技を融合してオリジナルに

限りなく近い形で完成させ、文化財のもとの所有者や文化財にゆかりのある地方自治体などへ寄贈される。

また一般への公開も目的としており、間近で鑑賞できることが大きな魅力だ。例えば、京都の建仁寺に寄贈した海北友松筆「建仁寺方丈障壁画五十面」(重要文化財)は、オリジナルの文化財は保存のために掛軸に作り直され京都国立博物館へ預けられているが、綴プロジェクトによる複製品は、もとのかたちである襖絵として再現し一般公開している。また、寄贈した他の作品は、美術館・博物館などで教育普及プログラムにも活用されている。

従来、日本の絵画や書物は模写により研究・普及がなされてきたが、現代ではさまざまなかたちの複製を通じて芸術に触れる機会が増え、質の高い複製品も文化振興の役割を担っている。オリジナルの文化財への敬意を払いつつ、自社の技術力をいかした新たな挑戦は、多くの人々に文化の扉を開き、歴史を未来へと綴っていく。

評価Point

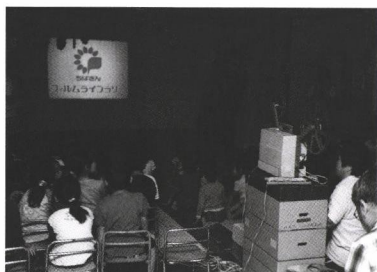
●優れた技術力をいかして、日本の貴重な文化財の保存に貢献する取り組みである。●伝統芸術の技術継承・研究を進め、広く鑑賞機会を提供し教育普及にも役立っている。

● 文化の映写機賞

(株)千葉銀行 ―― 千葉県

ちばぎんフィルムライブラリー

「ちばぎんフィルムライブラリー」は、1963年、千葉銀行の創立20周年にあたりスタートした。テレビが普及してきた当時、映画が娯楽として人気を集める中で、気軽に上映会が行えるようにと16ミリフィルムと映写機を貸し出したのである。当初より「長く残り、継続して行える地域に密着した活動」との趣旨で、来年で50年の節目を迎える。



「ちばぎんフィルムライブラリー」保育所での映写会

千葉銀行が保有する16ミリフィルムは423本、映写機25台。DVD/VHSが293本あり、ビデオデッキ・プロジェクターが9台、スクリーンもそろそろ。歴史・地理、自然・科学、教育・訓練、芸術、スポーツ、保健衛生、劇映画、アニメーション、ドキュメンタリー

など幅広い分野の映像があり、千葉の自然や文化をテーマに制作した独自の作品もある。国内174の店舗を窓口無料で貸し出し、1回につき5本、4日を上限としており、幼稚園や公民館、高齢者施設の利用が多く、特に夏休みやクリスマスの時期に集中するという。

レンタルビデオが一般化した今日だが、16ミリフィルムによる映写会はレトロな雰囲気醸し出し、利用者に好評だ。貸し出しに際しては映写機の使い方を講習し、返却後はメンテナンスを行う。16ミリフィルム・映写機ともに製造が中止された現在、同行が持つそれらは貴重な資料となっており、専門の業者が恒常的に点検・補修している。またDVD/VHSは再生機とアンプ、スピーカーをプロジェクターと一体化し、運びやすい形状に改良した。こうした配慮も利用者に喜ばれるところだ。

長年にわたる地道な活動で地域に親しまれるとともに、貴重な映像文化の継承にも貢献してきたのである。

評価Point

● 映写会によるコミュニティの形成を促し、地域とのコミュニケーションを図っている。● 半世紀におよぶ活動の継続により、貴重な映像資料の保管と活用に貢献している。

● 支援のこころ賞

トヨタ自動車(株) ——— 【東北各県】

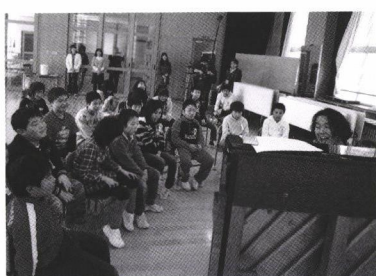
ココロハコブプロジェクト

「芸術・文化を通して復興支援活動」

2012年3月11日、宮城県南三陸町の総合体育館。東日本大震災犠牲者南三陸町追悼式で、町内5校の小学生135名の歌声が響いた。

この歌は、トヨタ自動車の社会貢献活動「トヨタ・子どもとアーティストの出会い（以下「子ども×アーティスト」）のワークショップで子どもたちが創作したものだ。

東日本大震災に際し、同社は人やモノだけではなく被災地に「支援の心」を



音楽家・いがり大志氏とオリジナル曲作り

運びたいとの考えのもと「ココロハコブプロジェクト」を立ち上げ、さまざまな支援活動を行っている。芸術・文化を通した復興支援活動ではこれまでのネットワークを活用

し、活動の拡充を図るとともに、被災地の負担にならない、本来に必要な支援を心がけてきた。

長年にわたるメセナ活動「トヨタコミュニティコンサート」では、全国のアマチュアオーケストラの「音楽で被災地の皆さんの力になりたい」という声により、13カ所の復興支援コンサートが実現。04年から続く「子ども×アーティスト」では、コーディネーター・吉川由美氏が南三陸町でアートの活動を行っていたことが縁となった。学校関係者やコーディネーターとの会議を重ね、11月、現地から「追悼式で、子どもたちの歌で町の人たちを元気づけたい」との発案を受けた。大事にしたのは、子どもたち自身の言葉と旋律による曲づくり。「町の人たちや自分たちがこの一年がんばったなあと思うこと」などをテーマに紡ぎ出された言葉が歌になった。子どもたちの歌声は、被災地の方々のこころに勇気を運んだ。復興への長い道の中、同プロジェクトは長期的な継続を目指し、震災2年目の支援活動を進めている。

評価Point

● 震災後の早い段階で活動を開始し、被災地の状況を見きわめながら支援に取り組んでいる。● メセナ活動の蓄積をいかし、アーティストやアートNPOとの協働を通じた多様な活動で被災地の方々を勇気づけている。

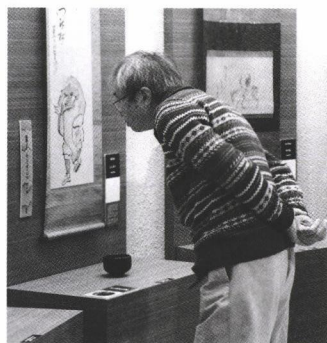
● 四季のそよかぜ賞

(株) 帆風 — 「青森県・八戸」

帆風美術館の運営

青森・八戸駅から車で約20分、八戸北インター工業団地にある帆風八戸センター1階に、2008年、帆風美術館は開設された。東京都内で営業する印刷会社の帆風が八戸に拠点を持って15年、地域へ貢献したいとの思いから設けた原寸の複製画展示を主体とする美術館である。

主に江戸期の日本美術をテーマに、同社開発のデジタル光筆画の技術で複製画をつくる。「たかが複製」を逆手にとり、国宝や重要文化財の掛け軸や屏風、絵巻物や画帖が一堂に会する展覧会を構想。博物館や美術館から



複製画に近づいて鑑賞する来館者

作品のポジフィルムを借り、あるいは撮影を行って2点製作し、1点は所蔵先に寄贈して教育普及活動などに活用されている。

開館記念展は「川端康成が見つめた三大南画家展」で、文豪が所有した国宝3点を中心に企画を膨らませた。第2回は「江戸時代動物園」、俵屋宗達や伊藤若冲ら71名の絵師により描かれた動物画129点がそろった。第3回の「妙・江戸時代人に出会う展」は、渡辺華山や菱川師宣らの肖像画、風俗画を展示。4回目となる昨年は、八戸藩主・南部信房公が俳諧をたしなんだことから「美術歳時記―日本人の自然観照／春・夏・秋・冬―」として、絵と俳句が描かれた「俳画」と季語にまつわる絵画を展示した。

毎回、専門の監修者が加わり、詳しい解説付きの図録も発行する。こうして本物では実現できない企画展を年1〜2回、観覧無料で内容を変えながら長期にわたり開催し、地元だけでなく遠方からも日本美術の愛好者が訪れている。

美術館運営には八戸の文化関係者がかかわり、友の会も組織されて、お茶会などのイベントも定着してきた。社業をい

評価Point

● 複製を前提にユニークな企画を実現し、日本美術への関心を高めている。● 社有施設を地域の文化拠点として公開するとともに、自社の技術をいかした活動で独自性を追求している。



Mécénat Awards 2012

● 未来のうけざら賞

三菱地所(株)、(株) イムズ、

(株) 西日本新聞社 —— 福岡県

三菱地所アルティアムの運営、展覧会の企画



開館 20 周年記念展「アルティアムプロスベクティブ」(2009)。作品の多くは本展のために制作された。

〈アートのスタジアム〉を意味する「三菱地所アルティアム」は、1989年、現代アートの発信拠点として九州最大の繁華街、福岡市・天神に誕生した。三菱地所初の本格的商業ビル「イムズ(Inter Media Station)」の8階にある144㎡のギャラリーは、ビルの基本コンセプトに則り、イムズと九州地方ブロック紙・西日本新聞社が協力して企画・運営し、年間約10本、開設以来23年間で250を超す展覧会を開催。2012年7月には来場者が100万人に達した。ギャラリーの最大の特徴は、公立美術館に先駆けて、国内外で活躍する現代アーティストの先見性・革新性ある展覧会を福岡から紹

介し続けてきたことにある。D・ホックニー(1989年)、C・ボルトンスキー(92年)、ナム・ジュン・パイク(96年)、横尾忠則(94、99年)、草間彌生(96年)、アルティアムでの展覧会後に飛躍的に知名度が高まった蔡国強(91年)や奈良美智(96年)、会田誠(99年)のほか、地元九州に縁ある柳幸典、副田高行、東信、牛島光太郎らを取り上げてきた。美術に限らず、建築やデザイン、映画、食など、現代の多様な芸術表現を、既成の評価・ジャンルにとらわれずに発信するジャンルフリーの理念で、意欲的な企画に挑む。観客層は20年のうちに着実に広がり、地元教育機関との連携や教育普及への取り組み強化もあって、高校・大学生の来場も増えている。

内外の先端のアートシーンを、未来に残すべき文化的表現か吟味し、逸早く福岡から世界に向けて発信し続けるその姿勢は、新しい表現の受け皿として、今後とも未来の文化創造を担っていく。

評価Point

● 国内外の新しい芸術表現に触れる場を、早くから独自の視点で意欲的に企画・提供してきた。● 四半世紀にわたり、民間による九州・福岡からの文化発信拠点として重要な役割を果たしている。

●文化庁長官賞

東日本電信電話(株) ――【東京】

NTTインターコミュニケーション・センター「ICC」活動

東京・初台にあるNTTインターコミュニケーション・センター「ICC」は、日本の電話事業100周年を機に構想された。1991年、電話やファクシミリを通じたアートプログラム「電話網の中の見えないミュージアム」を皮切りに数々のイベントを経て、97年にICCを開設。以来、メディア・アートを牽引する拠点として多彩な取り組みを展開してきた。



「オープン・スペース 2011」5階ロビー展示風景 撮影：木奥恵三

毎年、内容を変えながら長期開催する「オープン・スペース」では、メディア・アートの代表的な作品、バーチャル・リアリティやインタラクティブ技術などを用いた作品を展示。また新進アーティストに注目する「エマーゲンシーズ」コーナーや、産官

学の共同プロジェクトによる実験的な試みを紹介している。あわせて、現在のメディア・アートの動向やコミュニケーションをテーマとする企画展を開催。作品展示だけでなくトークやシンポジウム、ワークショップ、パフォーマンスなどを組み合わせ、幅広い層の関心を集める。

夏は「ICCキッズ・プログラム」で、子どもたちにメディア・アートのおもしろさを伝える。子ども自らが考え、体験し、想像を膨らませる内容が好評で、多くのリピーターが訪れている。さらにウェブ上での研究会や動画投稿イベント、映像記録やインタビューの公開など、オンラインでも世界を結びつけ、活動成果を発信し、情報交流を図るセンターとして機能してきた。

著しいテクノロジーの革新に伴い新たな表現が生まれ、従来の枠組みを超えたコミュニケーションが広がる。ICCの活動が、科学と芸術の対話が未来に開く可能性を今後も提示し続けていくことを期待したい。

評価Point

●日本のメディア・アートの拠点として逸早く活動を始め、ネットワークを通じて最先端の動向を紹介してきた。●子ども対象のプログラムや大学等との連携により、メディア・アートの裾野を拡大している。

メセナ大賞部門トロフィー

アーティストに3年間ずつオリジナルトロフィーを制作いただいています。



撮影：鈴木孝正

あした(朝日)2012-2014年 三部作

● 400 × 400 × 120mm
アクリル、ステンレススチール

制作コンセプト——relation

芸術文化を通して、人々が分野を超え時を超えつながっているように願いを込め、一本の線を積み重ねることによって個々のトロフィーの図像がひとつにつながって紡がれてゆくアートワークを制作します。それぞれの取り組みはもちろん、それが連なった時にも、また別の大きな夢を描けるよう、つながり受け継がれるような絆が結ばれることを願います。

テーマ——Licht

「Licht」はドイツ語で「光」や「明るさ」、そして「希望」を意味します。各年の各賞、三年間連続した大賞に刻まれている図像は、徐々に夜明けを迎えて、く雲間から光が広がる空の時系列」を追ったイメージを持って紡がれます。

※「メセナ大賞部門」のトロフィー制作にあたっては、[株]ワコールアートセンターにご協力をいただきました。

川上幸子 | かわかみ・さちこ

1984年生まれ。2009年京都造形芸術大学大学院芸術表現専攻修士課程修了。大学では一貫して彫刻を学ぶ。「知覚と造形」をテーマとし、近年は特に「知覚における〈見え〉」を主軸に、「目で触れる」感覚を追った造形作品を制作。ミニマルな方法論・素材の特性・描画技法の組み合わせで、さまざまな支持体の中に視覚的触感のある図像を生み出している。10年「SICF11」にてスパイラル奨励賞を受賞。

メセナ アワード2012贈呈式

2012年11月22日[木]

スパイラルホール[東京・表参道]にて

- 受賞企業には、表彰状とトロフィーを贈呈
- 受賞企業・団体の代表者、選考委員が出席

受賞企業プロフィール

◆——メセナ大賞

アサヒビール(株) [2011年12月現在]

本社所在地：東京都墨田区 | 資本金：200億円

設立年：2011年

(現アサヒグループホールディングス[株]は1949年設立。2011年に純粋持株会社制へ移行)

業種：食料品 | 従業員数：3,145人

URL：www.asahibeer.co.jp

◆——歴史をひもとく賞

キヤノン(株) [2011年12月現在]

本社所在地：東京都大田区

資本金：1,747億6,200万円 | 設立年：1937年

業種：電気機器 | 従業員数：2万5,449人

URL：www.canon.jp

◆——文化の映写機賞

(株)千葉銀行 [2012年3月現在]

本社所在地：千葉県千葉市

資本金：1,450億円 | 設立年：1943年

業種：銀行 | 従業員数：4,491人(連結)

URL：www.chibabank.co.jp/company/relationship/film_library

◆——支援のこころ賞

トヨタ自動車(株) [2012年3月現在]

本社所在地：愛知県豊田市

資本金：3,970億5,000万円 | 設立年：1937年

業種：輸送用機器 | 従業員数(単体)：69,148人

URL：www.toyota.co.jp

◆——四季のそよかぜ賞

(株)帆風 [2012年4月現在]

本社所在地：東京都新宿区

資本金：2億9,000万円 | 設立年：1980年

業種：その他製品 | 従業員数：442人

URL：www.vanfu.co.jp/service/museum.html

◆——未来のうけざら賞

三菱地所(株) | (株)イムズ | (株)西日本新聞社

※三菱地所(株) [2012年3月現在]

本社所在地：東京都千代田区

資本金：1,413億7,321万円 | 設立年：1937年

業種：不動産 | 従業員数：658人

URL：www.artium.jp (三菱地所アルティウム)

◆——文化庁長官賞

東日本電信電話(株) [2012年4月現在]

本社所在地：東京都新宿区

資本金：3,350億円 | 設立年：1999年

業種：情報・通信 | 従業員数：5,900人

URL：www.ntt-east.co.jp

www.ntticc.or.jp (ICCウェブサイト)

メセナ アワード 2012-2014 選考委員プロフィール



坂本光司 | さかもと・こうじ | 法政大学大学院政策創造研究科教授

1947年静岡県生まれ。法政大学経営学部卒業後、静岡文化芸術大学文化政策学部教授等を経て現職／同大学院静岡サテライトキャンパス長。「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」審査委員会委員長等、公務多数。著書『21世紀をつくる人を幸せにする会社』『日本でいちばん大切にしたい会社1.2.3』など。中小企業経営研究の第一人者として、6,600社を超える企業・商店街等への訪問調査・アドバイスを行う。



榎木野衣 | さわらぎ・のい | 美術批評、多摩美術大学教授

1962年埼玉県秩父市生まれ。1990年代初頭より美術を中心に多方面にわたる評論活動始める。著作に『シミュレーションイズム』、『日本・現代・美術』、『戦争と万博』、『反アート入門』、『太郎と爆発 来たるべき岡本太郎へ』『平坦な戦場でほくらが生き延びること 岡崎京子論』ほか多数。キュレーションした展覧会に『日本ゼロ年』（水戸芸術館、1999-2000年）ほかがある。



福岡伸一 | ふくおか・しんいち | 生物学者、青山学院大学教授

1959年東京生まれ。京都大学卒。米国ハーバード大学研究員、京都大学助教授等を経て現職。サントリー学芸賞・中央公論新書大賞受賞『生物と無生物のあいだ』『動的平衡』など「生命とは何か」をわかりやすく解説した著作多数。ほか『世界は分けてもわからない』、『フェルメール 光の王国』など。近著『遺伝子はダメなあなたを愛してる』、『せいめいのはなし』、『生命と記憶のパラドックス』。



松岡正剛 | まつおか・せいこう | 編集工学研究所所長、イシス編集学校校長

1944年京都生まれ。工作舎設立、オブジェマガジン『遊』編集長、東京大学客員教授、帝塚山学院大学教授を経て現職。情報文化と情報技術をつなぐ研究開発プロジェクトに携わる。日本文化研究の第一人者として「連塾」などの私塾を多数開催。09～12年、丸善・丸の内本店の「松丸本舗」をプロデュース。著書『松岡正剛千夜千冊(全7巻)』『連塾方法日本(全3巻)』『知の編集工学』『日本という方法』ほか多数。



茂手木潔子 | もてぎ・きよこ | 音楽学、有明教育芸術短期大学教授

1949年山梨県笛吹市出身。東京芸術大学大学院修了後、国立劇場演出室職員などを経て現職。上越教育大学名誉教授。越後酒屋唄の保存伝承活動、歌舞伎黒御簾楽器の研究などを行う。著書『文楽 声と音と響き』『酒を造る唄のはなし』など。伝統音楽に関する展覧会「浮世絵の楽器たち」（太田記念美術館）、公演「『北斎の音楽(おと)を聴く』シリーズ」（すみだトリフォニーホール）なども実施。

[以上五十音順、敬称略]



福地茂雄 | ふくち・しげお | 企業メセナ協議会理事長

北九州市出身。長崎大学経済学部卒業（前長崎大学同窓会瓊林会会長）。1957年アサヒビール(株)入社。同社代表取締役社長、代表取締役会長などを経て、2008-11年NHK会長。現在アサヒグループホールディングス(株)相談役、(公財)新国立劇場運営財団理事長、東京芸術劇場館長。

※文化長官部門については、文化庁担当者が選考に加わりました。